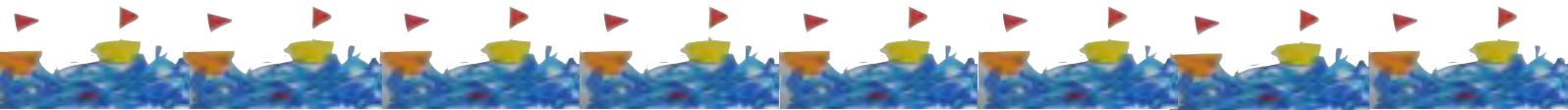


月歩学歩



“月日を歩き、学んで歩く” 明徳の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

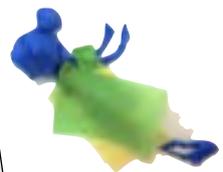
そこから私に見えたこと



WAKUWAKU MAP

Spain
Nepal
Cambodia
Japan

- 04 芸術という分母～スペインの文化に触れて
- 06 昔話が息づく町・遠野
- 08 生活と文化を考える～富山県利賀村研修
- 10 鹿児島の子ども、大人と出逢う
- 12 世界の最貧国カンボジアの子どもたち
- 14 Sense of Wonder in Nepal
- 16 富士山の頂から観る～登山と自然、自分自身を考える
- 18 東北スタディツアー
- 19 福島スタディツアー
- 20 !Hot News!



それぞれの「わくわく」
がどこで起こったか、
地図で確認してみよう！

本学2年生の教養基礎科目「フィールドワーク」は、過去の学生たちの声により、「わくわく」する体験ができるからと、自然と「わくわく体験研修」と呼ばれるようになりました。

今号はそんな「わくわく体験研修」を特集としてお届けします。いつもとは違う場に立ったことで、学生たちにはどのような景色が見えたのでしょうか。

芸術という分母～スペインの文化に触れて

行き先 ▷ スペイン カンタブリア州 サンタンデル

日程 ▷ 2016年9月8日～16日



概要

北スペイン・カンタブリアの州都サンタンデルを訪れます。
現地ではホームステイをさせて頂きながら、歴史的な街の散策、幼稚園訪問、アタウルフォ・アルヘンタ音楽院の学生さんたちとの共同コンサート等を行います。何よりもスペインの方々との交流は、何物にも代えがたい体験になると思います。

活動内容

日にち	内容
9/8	羽田空港 ▷ ヒースロー空港（イギリス） ▷ ビルバオ空港（スペイン）
9/9	サンタンデル市内観光
9/10	サンタンデル市内観光
9/11	ホームステイ先の家族と過ごすファミリー・デー
9/12	幼稚園訪問
9/13	幼稚園訪問、コミージャスとサンティジャーナ散策
9/14	アタウルフォ・アルヘンタ音楽院において現地学生との共同コンサート
9/15	ビルバオ空港（スペイン） ▷ ヒースロー空港（イギリス） ▷ 成田空港（16日着）



私がスペインに行きたいと思ったきっかけは、1年生の時に見たわくわくの発表会でした。異国の地という、環境の変わる世界に行ってみたいという思いがあり、海外に行くのは初めてでしたが、仲良しの友達と決めるのではなく、一人で決めました。(中略)ホームステイという形で私たちは泊まらせてもらいましたが、食べ物、家での行動、時間感覚、一つひとつが日本と違いました。その一つひとつが、今まで日本の文化で生きてきた自分にとっては衝撃的でした。(中略)この8日間は短い期間でしたが、私にとってはとても濃い時間でした。海外に行き、文化や環境の異なる場だから気づけることがあり、視野が広がりました。(安部 あすか)

美術館では、沢山飾られている絵の中から1枚選び、自分たちなりの見方で作品について考える時間がありました。この絵がどのような気持ちで描かれたのか、という普段考えたことのないことを考えたことで、気づくことがたくさんありました。それを誰かに伝えることで、さらに新たに気づいたり、感じたりすることができるのだと思いました。1つの絵を、時間をかけて考えることも大切なことだと思いました。(山田 眞知子)

コンサートの手話合唱では、みんなで本番前に部屋を借りてずっと練習して、自分たちが練習してきたものを出し切りました。観客の方には泣いている人もいて、言葉が伝わらなくても心に伝わるものがあり、私たちも感動しました。(脇 ひとみ)

最後の日、朝からサプライズで家族からたくさんのお土産をもらいました。手紙もあって日本語で書いてある所もあって感動しました。別れる時間はあつという間に来てしまいました。スペインの方達は、私たちが見えなくなるまで手をふってくれていて、終始涙が止まりませんでした。(森田 優夏)

(ホームステイ先の家族との会話では) 翻訳アプリがとても役に立ったのですが、もっと自分の言葉で会話をしたいと思いました。(中略) サプライズでフラメンコの衣装をもらい、感謝の気持ちを伝えました。でも、(通訳を通したので) 自分の口から言葉を伝えなかった。もっと言葉を勉強しておけば、と強く思いました。(中略) カルメンが来て、don't cryと言われて、泣かないように耐えていたら、私よりも先にカルメンが泣いていました。

今回スペインに行き、文化や生活が違い、言葉もわからない私を家族のように接してくれたことが、とても嬉しかったです。一番思ったことは言葉です。あんなに大嫌いだった英語を、今は自分から勉強するほど、英語をもっと勉強していればよかったと思いました。(横山 有咲)

昔話が息づく町・遠野

行き先 ▷ 岩手県遠野市

日程 ▷ 2016年9月14日～19日



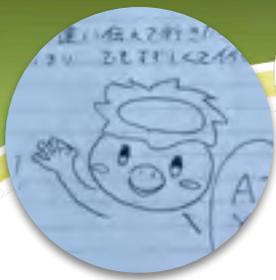
概要

生活が時代と共に変化する一方で、昔ながらの生活の中で育まれてきたものを次世代に伝えようとする人々がいます。今を生き、保育に関わる者として、私たちは何を受け継ぎ、何を子どもたちに伝えていくのかということについて考えます。

柳田国男の『遠野物語』で知られる遠野では、様々な人が昔話や習俗などの文化を伝えようとしています。それらの取り組みを通して、自分たちの文化について考える端緒としてください。

活動内容

日にち	内容
9/14	とおの物語の館・遠野市立博物館見学 遠野ユースホステル泊
9/15	土淵保育園で昔話交流会 常堅寺・カップ淵散策 伝承園にて馬っこ作り体験&見学 民泊（一人一軒） 神楽稽古（平倉神楽・遠野太神楽に二人ずつ分かれまして）
9/16	各民泊先で体験（編み物・がんつき作りなど） 平倉神楽稽古&遠野太神楽笠揃え 民泊
9/17	遠野まつりに平倉神楽・遠野太神楽で参加 民泊
9/18	遠野まつりに平倉神楽・遠野太神楽で参加 ホテル泊
9/19	宮沢賢治記念館見学 帰途



今回の遠野では、初めての体験づくしでした。たくさんの昔話を聞いたり、カッパ淵に行ってカッパが本当にいるような感覚を体験したり、民泊の方からたくさんのごちそうをいただいたり、平倉神楽で剣を振り回したり(笑)、最終日にはカッパジョッキパフェを食べたりと、最初から最後まで楽しく、不思議な体験でした。

空気もとてもおいしく、ここに住みたいと思ったほどでした。またいつか、遠野へ行って、神楽に参加したり、おいしい物をたくさん食べたりしたいなと感じました。(多田 有佳里)

今回の5泊6日の遠野旅は、とても穏やかで充実したものでした。

博物館見学や保育園の子どもたちとの昔話交流会などを通して、遠野に伝わる昔話の知識を得たり、お祭りに参加して伝統芸能を体験したりと、楽しい中にも学べる機会がたくさんありました。また、お世話になった民泊の方々は、初対面からお別れまでとても温かく接して下さり、今でも恋しいと思うほどです…。

他にも様々な郷土料理や、名物(?)のカッパジョッキパフェなど、食べ物もすごく美味しくとても幸せでした♡

自然が豊かで、優しく温かい人たちの住む遠野は、「また行きたい!」と思える素敵な思い出の場所となりました。(吉野 友里恵)

今回の体験で良かったことは、遠野の方たちとの交流でした。

土淵保育園の子どもたち、民泊先の方、遠野太神楽を伝承する遠野市大工町の皆さん、遠野の活性化に尽力いただいているNPO法人の方など多くの方々の温かさに心が癒されました。

保育園では、「佐々木喜善(『遠野物語』の発端となった人物)祭」に向けて練習した遠野に伝わる昔話を一生懸命に語る子どもたちの姿は、きらきらと目が輝きとても楽しそうで、呼応する私たちも子どもたちに聞いてもらいたいと、一生懸命語ることができました。

また、民泊先の方は、中秋の名月の明かりのなか、月にちなんだ物語を語って下さり、その夜、庭先に現れた猫がまるで物語から飛び出してきたキツネのように見え、不思議な感覚を覚えました。

そして、遠野太神楽では、神楽の一員となって笠揃え(前夜祭)に参加し、月明かりのなかを御幣と鈴を持ち大工町の家々の門の前で舞(門掛け)を行いました。神楽では外部者の私たちを快く受け入れ、親切に舞を教えてくださいました。来年も神楽の一員に入れていただきたいと思える方たちでした。(櫛原 悦子)

生活と文化を考える～富山県利賀村研修

行き先 ▷ 富山県南砺市利賀村

日程 ▷ 2016年9月11日～18日



概要

富山県の山の中で約1週間の村の暮らし体験を行います。コンビニを始め都会的なものは一切ありませんが、村の方々のあたたかい気持ちはいっぱいあります。人と人とのつながりが濃く残る地域での生活を通して、自分たち自身の暮らしを見つめ直したいと思います。

活動内容

日にち	内容
9/11	千葉▷富山▷利賀村 / こどもみらい館見学 (毎日、村の方々との交流(民泊)・学生たちの共同生活)
9/12	保育園にて保育参加・農業体験(選択)
9/13	保育園にて保育参加・農業体験(選択)
9/14	保育園にて保育参加 / 相倉合掌集落(世界遺産)見学
9/15	保育園にて保育参加・農業体験(選択) / 岩魚つかみ取り / 紙漉き体験
9/16	農業体験 / そば打ち / 山の散策
9/17	農業体験
9/18	利賀村▷富山▷千葉



私が利賀村を選んだ理由は、2年になり就職の事も考え始めるにあたり実習での子どもたちのかかわり方など、自分の技量を知る事ができ保育者には向いていないのでは？と考えるようになったことと関係があります。そこでいったん、「子どもたちから離れてみよう」と考え2年最後の実習は施設にして、わくわく体験でも農業にもともと少し興味があったので、保育の現場には一切行かずにしようと思い、利賀村の農業体験を選びました。

村では草刈りや畑仕事、ライスセンターでの搬入作業などを経験しました。どれも、地元で見たことや体験したことに近い事でしたが、とても楽しく活動できました。

そうした中で、いつのまにか思うようになったことがありました。それは、「子どもたちと一緒にやったら面白そう」という考えです。こども未来館や紙漉き体験のときには、これだったら自分にも子どもたちの前で率先してできそうなどと考えていました。

一日だけ子どもたちと一緒に活動しましたが、子どもたちと関わるのはとても楽しく子どもたちの笑顔を見ると保育者になりたいという気持ちになりました。自分の得意な、自然体験や、農業も子どもたちのいい経験になると思います。まだ保育者に向いてないと思う気持ちもありますが、まず第一歩を踏み出してみようと思います。就職先の園はそういった自分の良さを出せる場所だと思います。

これから先プレーパークなどでも、自分のスキルを高めていきたいと思っています。(緑川 大地)

私がなぜ利賀村を選んだのかというと、去年の先輩方の報告会のお話を聞き、田舎の雰囲気が好きなのは利賀村でいろいろな人と出会い、普段体験することのできない農業などをしたい、また社会人になったらこのような体験をする機会はなかなかないだろうと思ったからです。

実際に利賀村に足を運ぶと村の方々はとても温かく迎えて下さいました。泊まらせていただいた時は手作りの美味しいご飯をご馳走になり、「利賀村の物が1番おいしいんだよ」とどこにいても楽しそうにお話されてる姿を見て本当に利賀村が大好きなんだなと、感じました。

熊の肉や、蜂の子等普段だったら絶対に食べられないような物も出していただいたり、生魚が食べられない私でも一口挑戦してみると初めて美味しいと感ずることができました。利賀村の食材が美味しいということもあるかもしれませんが、きっと村の人や仲間と大人数でワイワイと食べたから余計に美味しく感じられたのではないかなと思いました。私は普段家族が仕事や部活の関係で生活が合わずご飯は1人で食べることが多いです。村での生活では毎日いろいろな人と食べて、食事は美味しいだけでなく、とても楽しいものなんだなと改めて感ずることができました。今の生活を変えることは難しいけど、一緒に食べられる日を大切にしていきたいと思えました。

村の人はみんな仲が良く、家に鍵をかけない、気づいたら家の中に人が集まっていたりと、今の私たちの生活では考えられないものでした。しかし、村の人たちは人との関わりを大切に、信頼し合っているからこそできることなのではないかと考えました。

年上の方とあんなに話をしたことがなかったので、何を話したらいいのか分からず緊張してしまう部分もありましたが、私の暮らしと利賀村の暮らしの違い等、同じ日本でも少し離れるだけでこんなにも違いがあるのだと知り、学びになりました。帰り際には、「また来てね」と送り出して下さり「またここに帰ってきたい」と強く思いました。本当に素敵な出会い、学びをすることができました。(森 美由華)

鹿児島県のこども、大人と出逢う

行き先 ▷ 鹿児島県枕崎市・薩摩川内市

日程 ▷ 2016年9月12日～17日



概要

鹿児島という地域に根ざした保育園・出版社を訪ね、そこで生活する子どもや大人と出逢い、宿泊しながら生活を共にし、交流を深める。生活の中では、その糧である食料を自給自足するために、釣りや鴨の解体及び調理などを体験する。

活動内容

日にち	内容
9/12	午後：まくらざき保育園
9/13	午前：まくらざき保育園 午後：さとのもり保育園
9/14	全日：さとのもり保育園
9/15	午前：さとのもり保育園 午後：南方新社
9/16	午前：南方新社 午後：研修メンバー活動
9/17	午前：研修メンバー活動



私は、実習も含め2週間鹿児島に行ってきました。その中のまくらざき保育園のことについて私は書きます。まくらざき保育園は、泥のすべり台という印象が強いと思いますが、保育中はすべり台だけではなく、こどもたちはみんな水着で、汚れてもいい格好で遊んでいます。とてもこどもたちがのびのびと遊んでいるような園でした。私は、自由保育に興味があり、実習でもお世話になりました。まくらざき保育園で、自由保育の大変さを知ることができ、こどもがどういう経験ができるかも学ぶことができました。

また鹿児島の方々の温かさとても感じることができました。みなさんがとても温かく迎え入れてくださり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

1年生のみなさんも、ぜひ鹿児島のフィールドワークに行つて、自分でこの気持ちを感じてきてほしいなと思います。(中島 あかね)

さとのもり保育園では着いたときから、私達を暖かく迎えてくれました。保育園の方たちはみんな優しい人達でしたので私達も落ち着いてそれぞれ自分の好きな年齢のクラスで保育体験をしました。1日目の保育体験では、丁度その月のお誕生日会と重なりました。園の職員が「赤ずきん」の劇を演じ、子どもたちと笑ったりみんな元気よく歌ったりと、とても楽しいお誕生日会でした。2日目もそれぞれ昨日と同じクラスに入り、子ども達と沢山遊びました。子ども達も心を打ち解けてくれて本当に楽しい時間でした。保育園を出発する時は子ども達はとても悲しそうで、私達も悲しくなりながらも「また遊びに行くからね。」と伝えて出発しました。さとのもり保育園はとても素敵な保育園です。是非、今の1年生達も来年行ってみてください！(栗山 恵里奈)

さとのもり保育園とお別れした後、南方新社という出版社へ向かいました。到着した後、社長さんと農家の方の元へ行きました。そこで鴨の解体体験をしました。解体作業のお手伝いも少しさせていただきました。その夜、その鴨を南方新社の社員の方々と一緒にいただきました。食べ物のありがたみを感じると共に、皆さんから沢山のお話を聞くことができ、とても楽しかったです。次の日は、社長さんと近くの川へ釣りをしに行きました。最初は苦戦しましたが、アドバイスをいただき、見事全員が釣ることができました。南方新社では一つひとつの体験が新鮮で、とても楽しい時間を過ごせました。この体験を、これから先に生かしていきたいと思います。(平野 春奈)

世界の最貧国カンボジアの子どもたち

行き先 ▷ カンボジア プノンペン

日程 ▷ 2016年9月8日～14日



概要

カンボジアの首都プノンペンを中心としたフィールドワークで体験研修を行います。児童養護施設や貧困地域の小学校を訪問し、子ども達と遊び、触れ合い、子どもたちがどのような暮らしを行っているのかを知ることがひとつの目的です。また、カンボジアの歴史（アンコールの時代やポル・ポト政権時代）についても学びます。

活動内容

日にち	内容
9/8	成田空港 ▷ ハノイ ▷ シェムリアップ
9/9	アンコールワット見学 夜：シェムリアップ ▷ プノンペン
9/10	A児童養護施設訪問 市内観光（市場で買い物、メコン川クルーズなど）
9/11	キリングフィールド見学 トゥールスレン収容所見学 夜：ナットさん（ガイドの方）のお宅で交流会
9/12	B児童養護施設訪問
9/13	障がい者自立支援センター訪問 C児童養護施設訪問
9/14	市内観光（お寺見学、市場で買い物など） プノンペン ▷ ホーチミン ▷ 成田空港



◆児童養護施設の子どもたちとのかかわりから・・・

ある女の子が私の髪をアレンジしてくれました。何かその子にお返しをできないだろうかと考え、私もその子の髪をアレンジしました。結び終わると、嬉しそうに「ありがとう」と言ってくれました。そこから、名前や歳を英語で聞きました。お別れの時、スレイピーンちゃん（その女の子）が泣きながらこちらへ来て、「ありがとう」と伝えてくれました。私もクメール語で「ありがとう」と伝えました。この時思ったことが、もっとクメール語を話せたら良かったら良かったらということ。（小林 英里佳）

ここで出会った子どもたちとの時間は、とても貴重な時間になったことは間違いないです。また、施設長の話では、支援が減っていること、支援物資がしっかり行き届いていないことなど、問題が山ほどあるとのことでした。そのために国を渡って物乞いに行く子どももいると聞き、そこまでして子どもが生きていかなければならないのだと知り、子どもたちとのかかわりながら、この施設に来るまで子どもたちはどう過ごしてきたのだろうと思いました。そして、何か自分にできることを見つけていきたいと強く思いました。（根本 来夢）

◆カンボジアの歴史を学んで・・・

絶対ポルポトは許せないし、許してはいけないと思います。だけど、ポルポトは何を伝えたかったのか、何を訴えたかったのかを知る必要があると思います。そして、ポルポト政権の出来事を世界のいろいろな人たちに知ってほしいと思うし、私もその出来事を周りの人たちに伝えていきたいです。世界中が笑顔あふれる、幸せあふれる時代が来るように私もがんばりたいし、願っています。（佐久間 美帆）

◆物乞いをする子どもたちについて・・・

（物乞いをする子どもたちに対して）私は何もできなかったと、ずっと心の中がモヤモヤしていました。しかし、現地のガイドさんや現地に住んでいる卒業生（小木曾先輩）の考えを聴いて、「何もできなかったと思うこと」、悩むことは大切だったんだと気づきました。それから数日後の最終日、物乞いの子どもにお菓子をあげると、その子はお返しに花と木の実をくれました。私はこのとき、この優しい心をこれからも持ち続けてほしいと思いました。また、「これからのカンボジアをつくっていくのはこの子たちなんだな」と、ふと考えました。（杉本 拓海）

◆カンボジアスタディツアーを通じて・・・

このツアーに参加して本当によかったと思います。もし行ってなかったら日本以外の国の現状を知ることなかったし、自分の贅沢な暮らしが当たり前だと思ってずっと生活していたと思います。また、「支援」について深く考えるようになったし、自分が将来どういう職業に就きたいのかを深く考えるきっかけになりました。（淡路 彩乃）

私は、何でもある環境で何でも用意されているのが当たり前で、何かに自分から必死になることなどありませんでした。ここが自分に大きく欠けていると気づく機会になりました。（高橋 日菜乃）

カンボジアでの時間は毎日が充実していました。20年間生きていて一番リア充でした。（山岸 みどり）

SENSE OF WONDER IN NEPAL

行き先 ▷ ネパール リナモッチェ・ハイスクール

日程 ▷ 2016年9月8日～17日



概要

ネパール連邦共和国のカルナリ県ディリチョール村にあるリナモッチェ・ハイスクールを訪問します。リナモッチェ・ハイスクールは、公立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学進学予備校が一体となった学校で、千葉明德学園の姉妹校です。理事長は2006年以来、毎夏、姉妹校を訪問し、学用品の寄附・村人との交流などの活動を行っています。学生は、姉妹校で実習を行います。

活動内容

日にち	内容
9/8	国際線成田 発 ▷ タイ・バンコク 着
9/9	国際線バンコク 発 ▷ ネパール・カトマンドゥ 着
9/10	国内線カトマンドゥ 発 ▷ ネパールガンジ 着
9/11	国内線ネパールガンジ 発 ▷ ジュムラ 着 ▷ 徒歩 デリリチョール村 着
9/12	デリリチョール村 リナモッチェ・ハイスクールにて実習（授業）
9/13	徒歩 デリリチョール村 発 ▷ ジュムラ 着
9/14	国内線ジュムラ 発 ▷ ネパールガンジ 着 ▷ カトマンドゥ 着
9/15	シッディ・メモリアル・ホスピタル（医療福祉施設）訪問
9/16	国際線カトマンドゥ 発 ▷ タイ・バンコク 着 発 ▷
9/17	成田 着



私がネパールを選択したのは、山の景色を見ながら歩くことが大好きなので、徒歩で移動することが楽しそうだったからです。けれども実際に行ってみると、楽しいことがたくさんありました。ネパールに行って特に印象的だったことは、街の人や、村へ向かう途中の山道などですれ違う人々に“ナムステ”と挨拶すると、笑顔で返してくれたことです。初対面の外国人にも、優しい人ばかりで、人とすれ違うことが楽しみになり、挨拶するたびに温かい気持ちになりました。普段いる日本では、あまり体験できない人とかかわりだと思いました。また、街中や学校では、ネパールの子どもたちと松ぼっくり拾いをしたり、凧揚げをしたり、写真を撮ったり、シャボン玉で遊んだりしました。言葉が通じなくても、私も子どもと一緒に楽しむことができたので、来て良かったと思いました。ネパールでかかわれた人々、日本語が上手なガイドさんや手厚いサポートをしてくれた先生方、寝食を共にした仲間といわれた時間がとても楽しくて、日本にまだ帰りたくない、この国の人ともっともっとかかわりたいを思いながら帰国しました。一ヶ月たった今でも、またネパールに行きたいと思えるFWでした。（岩井 凜）

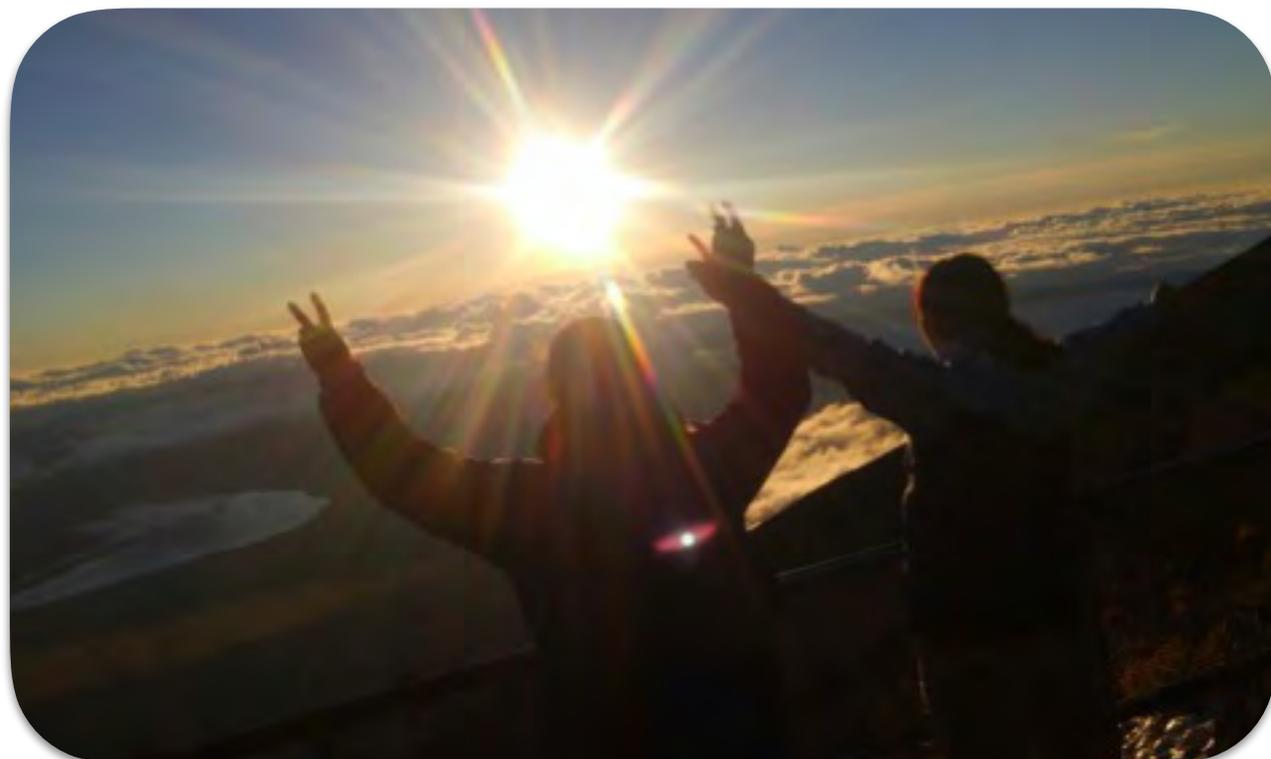
私はFWでネパールへ行ってきました。選択した理由はネパールへ行き、さらに現地の姉妹校で授業をする機会が今回ぐらいしかないだろうと思ったからです。一番印象に残っている姉妹校での授業は、言葉が通じないので簡単な意思疎通も難しく、持って行った折り紙やペンが取り合いになってしまいうこともありましたが、通訳や引率の先生に手伝ってもらいながら楽しく授業ができました。市内を歩いているとチップを求めてくる子どもの横で制服を着た子が授業を行っていたり、登校する子どもたちの側で朝から仕事をしている子がいたり、日本とネパールの子どもが過ごす環境の違いを見て感じることができました。また現地の人は優しく見知らぬ外国人の私が挨拶をすると笑顔で返してくれ、中には「コンニチハ」と日本語で挨拶してくれた人が、もう一度すれ違った時に「トモダチ！」と言ってきてさすがに驚いたけど、嬉しかったです。あとネパール料理はすごく美味しかったです。初めは楽しみの中に不安もありましたが、行ってみると、とても充実した研修旅行になったので本当に行けて良かったです。（堀内 汐音）

富士山の頂から観る

～登山と自然、自分自身を考える

行き先 ▷ 富士山

日程 ▷ 2016年9月7日～9日



概要

この研修の目的は、富士登山を通して、自然と文化及び挑戦する心を育むために行っており、今年で4年目となります。特に、この体験を通して、学生は人と触れ合い、仲間と助け合い、1つの大きな目標を達成します。今年度は、3人の参加者でした。事前に高尾山・陣馬山で調整しましたが、富士山に登る際に台風が直撃したため、2泊3日の日程を1泊2日とし、五合目からの登頂を目指しました。

富士山：旧吉田ルートで、標高809mから頂上を目指す

活動内容

日にち	内容
9/7	【中止】 富士山駅 ▷ 富士山五合目佐藤小屋
9/8	東京駅 ▷ 14:00 富士山五合目。雨の止むのを待ちながら、雨が降る中出発。 19:00七合目 鎌岩館泊
9/9	3:00起床 ▷ 山頂へ出発（途中ご来光） ▷ 7:00山頂着 ▷ 下山 ▷14:00 五合目着



私がこのフィールドワークを選んだ理由は、もともと富士山に一度は登ってみたいと思っていたからです。また、大学生活で何か思い出を残したいという気持ちで選びました。

行く前は楽しみで、絶対登れると軽い気持ちでしたが、行ってみると思っていたよりきつくて、簡単ではありませんでした。ですが一緒にいったメンバーや先生に励まされながら、みんなで頂上まで行きたいという思いが強く、最後まで登ることが出来ました。

今まで見たことない景色やいろんな人との関わりがあり、大変だったけどとてもいい経験になりました。

途中で辞めたい。頂上に行けなくてもいい。と思った時もありましたが、頂上まで行けたことで人の支えは自分にとってとても大切なことなんだと感じました。このフィールドワークを選びよかったです。

(飯塚 優紀)

このフィールドワークを選んだのは、興味があったのと、先輩の発表を聞いて、大学生活で何か思い出を残したいなと思ったので、選びました。

山に登った事なんてなかったし、日本一高い山に登るなんてできない、と登る前は思っていました。

登ってみると空気は薄く思っていたよりも辛かったです。けれど、一緒に登ったメンバーが頑張る姿を見て、私も頑張ろうという気持ちになったし、みんなで御来光をみたり、達成感を味わったり、登り切りたいなと思い、登っていました。普段の生活では味わうことの出来ない景色に圧倒され、全く知らない人と挨拶や言葉を交わし、美味しい食べ物や温かい寝袋など、終わってみるとすごく良い思い出になったし、とっても達成感のある日になりました。自分はここまで出来るんだと、自分自身への見方が少し変わったように感じました。

このフィールドワークを選び、全員で登ることができてよかったです。(荒木 侑)

東北スタディツアー

行き先 ▷ 岩手県宮古市・福島県福島市

日程 ▷ 2016年8月14日～17日



概要

東日本大震災で何が起こったのかを知るとともに、復興の状況（岩手）を見聞します。また、福島浜通り方面の現状を見聞し、復興が進まない原因、すなわち、原発問題の大きさ、深刻さを学びます。人間の強さを考えるとともに、人間の作った文明のもろさを考えることを趣旨とします。

活動内容

日にち	内容
8/14	大型バス千葉県 発 ▷ 岩手県宮古市 着
8/15	三陸鉄道田野畑駅発 震災学習列車
8/16	大型バス岩手県 発 ▷ 福島県福島市 着
8/17	大型バス福島県 発 ▷ 千葉県 着

福島スタディツアー

行き先 ▷ 福島県いわき市・福島市

日程 ▷ 2016年8月15日～17日



活動内容

日にち	内容
8/15	大型バス千葉県 発 ▷ 福島県いわき市四倉港、 ▷ 国道6号線を北上しながら、浜通りの被害の爪痕を見学。 ▷ 福島原発の立地している双葉町、大熊町の被災現場を見学。 ▷ 南相馬・農家民宿「いちばん星」 着 民宿のご主人に3・11後の生活をうかがう。
8/16	「いちばん星」 発 ▷ 中通りの被災現場を見学 ▷ 福島県立青少年会館 着 東北スタディツアーと合流。合同報告会。
8/17	青少年会館 発 ▷ 会津電力（喜多方市）、太陽光発電による「地産地消」見学。 ▷ 三春町の滝桜 ▷ 千葉県 着

わくわく体験研修 報告会

10月11日(火)、わくわく体験研修の報告会を行いました。

2年生にとっては、自分自身の体験を言葉や映像で整理し、他者に伝える機会。

1年生にとっては、来年、どの体験研修を選択するかを考える機会。



報告を聞いた1年生の感想を少しだけ紹介します。



私は入学して「わくわく体験研修」のことを知り、とても楽しみにしていました。今回、先輩方の話を聞き、今自分が何をしてみたいのか、どこに行きたいのか、ある程度決めることができました。2年生でのわくわく体験研修がとても楽しみです。



今回の報告を聞いて、自分の目で見て耳で聞いて、自分で体験をすることによって、考え方を見つめ直したり、より興味を持ったり、とてもいい経験をしたのではないかと思います。今しかできない体験を大切にしたいと思いました。



報告会に参加し、今まで自分は、人の考えや話を聞いたり、メディアからの情報だけで自分の考えを持ったり、意見したりしていたと思いました。実際にその場所へ行き、その物事について自分の目で見て感じることで、自分の経験として消化できるような気がします。何事もやってみなくては分からないし、心配するより経験して感じるほうが大事だと思いました。自分が参加できる体験は今回の中では難しい(スケジュール、費用面で)ものばかりですが、自分でも何かやってみたい、という気持ちになりました。



カンボジアとネパールにとても興味を持ちました。海外旅行では絶対に味わえない体験。世界共通で子どもの笑顔が素晴らしい。あの目を濁らせてはいけないと思いました。



どの場所も、そこでしかできない体験をすることができるとても魅力的な研修だと感じました。自分が住む地域とは離れた場所で、子どもたちと関わりを持ったり、他国で互いに文化を伝え合うといった体験はなかなかできないことなので、体験してみたいと思いました。

幕張祭の特別演奏会に出演しました！



10月9日（日）、「放送大学千葉学習センター」の「幕張祭」にて、本物の芸術を身近に感じていただくため、明石先生がギター演奏、明石ゼミの学生が手話合唱、そして高森先生が明石先生のギターと共に、千葉の羽衣の朗読を行いました。

お話ライブ

10月15日（土）、今回のお話ライブでは、1年生授業「教養総合演習」《絵本に親しもう》コースの選択者4名と、2年生の有志3名が参加しました。1年生はこの日のために毎日パネルシアターを練習していました。また、2年生による手袋人形は、ほぼアドリブ。タオルを1枚ずつめくっていくアイデアや堂々とした演じ方で、1年生の尊敬を集めていました。



スタートアップカレッジ

いよいよ、来年度入学予定者を対象としたスタートアップカレッジ（入学前教育）が始まります！

1・2年生の皆さん、今度はスタッフとして参加してみませんか？お待ちしております！

○日程○

第1回▷11月26日（土） 第2回▷12月17日（土） 第3回▷1月21日（土） 第4回▷2月25日（土）

オープンキャンパス

10月16日（日）、オープンキャンパスを開催しました♪

今回の体験授業 🍷 「身の周りのモノで遊んでみよう」

参加者と学生スタッフの全員でじゃんけん列車をしたり、一つとして同じ色・形のない様々な石を使って遊んでみました♪

オープンキャンパスでは、毎回、学生スタッフが大活躍しています♪

まだスタッフを経験したことのない学生の参加もお待ちしております。

次回からは、進路相談会を開催します。学生スタッフの皆さん、一緒に楽しみましょう！

○日程○

11月26日（土） 10:00～12:30・13:30～16:00

12月17日（土） 13:30～16:00

1月21日（土） 13:30～16:00

2月25日（土） 13:30～16:00



いのはなカルチャーコレクション

コラボ アクト プロジェクト

Collab Act Project

そら
天 仰ぐ 花

～天女つれづれ語り～

朗読・ダンス・音楽による創作舞台

第一部

花・空・風

～言葉・身体・音楽の共鳴～
ともなり

第二部

そら
天 仰ぐ 花

～天女つれづれ語り～



高森智子
〈原案・朗読〉



田中葵
〈振付・演出・ダンス〉



明石現
〈作曲・音楽指導・11弦ギター〉



平成28年12月2日（金）

14:00 開演 全席自由 500円

千葉県文化会館 小ホール

主催：  千葉県文化会館
(公財)千葉県文化振興財団

制作協力：千葉明德短期大学
後援：千葉県

プレイガイド

インターネット予約 <http://www.cbs.or.jp/>
千葉県文化会館 043-222-0201
千葉県東総文化会館 0479-64-2001
千葉明德短期大学 043-263-9111



公開講座 めいトーク 2016

保育における表現を問う

2016年11月19日(土)

12:30 ~ 16:30

会場 千葉明德短期大学 講堂

アクセス 京成ちはら線「学園前駅」徒歩5分/ JR「蘇我駅」より小湊バス15分

参加費 2000円(卒業生1500円)

第1部 12:30~14:15

基調講演

一緒に表現する活動を考える

～共同性の根幹にあるもの～

岩田遵子先生(東京都市大学 教授)

第2部 14:30~16:30

分科会

① 土粘土は子どもにとってなぜいいの?
深谷ベルタ(本学教授)

② 子どもの声を聴くこと、共に表現すること
古山律子(本学准教授)

③ 共に動く身体、動きを捉える目
田中葵(本学専任講師)

④ 遊びの共同性—わらべうた遊びの意義—
岩田遵子先生(東京都市大学 教授)
由田新(本学教授)

今年で16回目を迎える千葉明德短期大学の

「公開講座 めいトーク 2016」では、

来年7月の公開講座と連続するテーマとして

「子どもと保育者の表現」について講演と

ワークショップを通して考えていきます。

お申し込み・問い合わせは、以下のアドレスまで

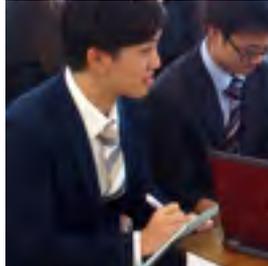
korinken@chibameitoku.ac.jp

(氏名 所属 連絡先 希望する分科会を記入)



Meitoku Snap

➡ 1年生授業「子どもと文化」にて、附属幼稚園の園庭をお借りして「たき火」の勉強。



↑ 9月21日と26日、2年生は「就業のための説明会」がありました。さまざまな幼稚園、保育所からいらした保育者の話を皆真剣な表情で聞いていました。今、それぞれの未来に向かって動いています。

編集後記

今号では、学生がいつもと違う場所へ行き、心踊った体験を綴りました。人との関わり方や時の過ごし方の違い、それぞれの場所での生き方の違いに触れ、一人ひとりに感じたこと、考えたことがあったようです。そして、「そこ」から「ここ」へ戻った時、いつもと同じ場所から見えることや自分自身への見方に何かしらの変化もあったようです。その変化が、わくわく体験研修の醍醐味の一つで、学生の心を豊かにしていると思います。日々の生活の中にもきっとある心踊る種に、目を向け、耳を傾けることで、日々がもっとわくわくしたものにになりますように。(鶴田)

編集：田中 葵 鶴田 真二

- 読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。



発行：千葉明德短期大学 千葉市中央区南生実町1412

- Tel:043-265-1613
- Fax:043-265-1627
- mail:tandai@chibameitoku.ac.jp
- web:http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html
- blog:http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai/campaslife/blog/html



明德の11月



2	水	保育士資格説明会
8	火	研修生スクーリング
8	火	職業体験（中学生、～10日）
11	金	まんぶくCAFE
12	土	指定校推薦・一般推薦入試
13	日	
17	木	保育実践研究会
18	金	教育実習Ⅰ（1年生）
19	土	公開講座めいトーク2016
19	土	保育体験Day（高校生）
22	火	千葉明德学園100周年記念事業公演
23	水	祝日授業（1年生）
25	金	教育実習Ⅰ（1年生）
25	金	研修生スクーリング
26	土	進路相談会 スタートアップ・カレッジ①

明德の12月

2	金	コラボ・アクト・プロジェクト
16	金	めいとくはうたう (教職員・学生コンサート)
17	土	進路相談会 AO入試3期 スタートアップ・カレッジ②
23	金	冬季休業開始